

地域ができること

これからの超高齢社会で、介護が必要になっても地域で暮らし続けるには、日ごろから声をかけ合うなど、わたしたちがお互いに支えあうことが必要です。そのため本市では、平成29年度から「生活支援体制事業」が実施されています。この事業は、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・予防・生活支援などのあり方を地域で考え、行政がバックアップすることを目的としています。

過日、秋間公民館では市職員、安中社会福祉協議会の生活支援コーディネーター、ちいき生活応援隊(※)のメンバーが集まり、話し合いが行われていました。参加したメンバーがひとつの協議体となって、困りごと、見守り活動、居場所作りなどの問題に対して地域に合った支え合いの仕組み作りを考えていきます。話し合いは2か月に



1回程度開催され、この日が3回目でした。

「まだなにをやるか悩んでいて、地域でどんなニーズがあるかアンケートの配布などを検討している段階です」、ちいき生活応援隊の浅井さんからは手探りの雰囲気伝わってきます。

これまでは国や市などの行政機関が、一律したサービスを提供することが重視されてきましたが、この事業では、地域の人たちが主体的に地域の困りごとを題材とし、解決に向けて話し合っていきます。

浅井さんは続けます。

「いろいろと悩むことも多いけど、指示待ちでは自分たちの必要な対策は進まないと感じています。高齢者は人と会ったり、話したり、事業などにも参加したいと思っています。今後の若者世代のためにも高齢化についての解決策を見つけたしたいと考えています。この事業は地域が独自で対応できるのが良いところだと思います」

地域の一員として、みんなで考え、それぞれの役割を持つことが、安心して暮らせるまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

※ちいき生活応援隊とは：地域住民が主体となって、地域に合った支え合いの仕組み作りを考えていくチーム

「介護マーク」を配布しています。ご利用ください。

介護マークとは、トイレの付き添いや下着の購入時など、介護中の人を周囲から偏見や誤解を受けないように、介護をしていることを周囲に表すマークです。介護を行っている人であればどなたでも利用できます。安中市では困介護高齢課と困住民福祉課の窓口で配布します。希望する人は窓口で交付を受けることができます。詳しくはお問合せください。



【問合せ】困介護高齢課高齢者対策係(☎内線1181)
困住民福祉課 健康介護係(☎内線2151)